

愛され、祝福されているあなたへ

立教大学チャプレン 斎藤 徹



新しいときはじまりを迎えました。新入生のみなさん、ようこそ立教へ！学業、また様々な活動を通して、みなさんの学生生活が豊かなものとなりますよう、心からお祈りし、また微力ながらサポートさせていただきます。

私たちは新年度を迎え、これからのそれぞれの目標や、思い描いている日々むけて歩み出していきます。私自身の過去を振り返ってみると、自分の思い通りになったこと、完全にすべてのことを達成できたと満足したことなどは、ほとんど記憶にありません。むしろできなかったことや、やってみただけで上手いかなかったこと、予測不可能な出来事に見舞われたことなど、「できない」と感じた記憶が心に刻まれています。人生は思い通りにならず、「なぜ、上手いかないのか」との落胆を数多く経験してきました。努力が足りなかったと言えその通りなのですが、なんだか自分だけが祝福された毎日を送れていないように感じられたこともありました。でも、そうではないのです。

数年前、ある子どもに鉄棒の逆上がりを教えてほしいと請われ、一緒に公園に出かけ、練習しました。地面を力強く蹴り上げる、鉄棒をしっかり握ってタイミングよく腕を引き寄せる、そのようにコツを伝えながら、子どもの体を支えたり、自分がやってみせたりしながら、練習を重ねました。しかし、あと一歩のところまで両足が回りきらず、なかなか上手にはできません。ふと、手のひらを気にするので、手を見せたら、皮が破れ、痛々しい赤みを帯びていました。「もうやめようか」と声をかけましたが、その子は「あとちょっと」と痛みを堪えながら、逆上がりに挑戦します。とうとう日が暮れて、逆上がりができないままに、その日は帰ることにしました。帰り道に、傷を抱えた手を

痛そうに振りながら、「せっかく教えてくれたのに、今日は逆上がりができなくて、ごめん」とその子は言いました。その姿、その思いが、私には、心から愛おしく感じ、そして人としての美しい光を湛えているように映りました。

何にせよ「できる」に越したことはないとは人と言うでしょう。できる人が褒められ、できた人が成功を取っていく世の中であると多くの人が考えるでしょう。だから失敗しないように、上手に生きられるようにしなければとの焦りを感じるかもしれません。

でも「できる＝愛される」「できない＝愛されない」ではありません。児童、生徒、学生の皆さんを見守りながら共に歩む人々の目は、そして神の眼差しは、できるかできないかではなくて、あなたという存在そのものに喜びを見出しています。努力を重ねている姿、ついサボってしまう姿、様々な出来事に本気で喜び、心から悔しがる姿、そしてときに「できない」を抱えながら立ち尽くす姿…。そのあなたという存在そのものが尊く、愛おしく、そして美しいのです。

聖書は、神が人を土の塵から造られたとき、生命の息を吹き入れることによって人は生きる者になったのだと伝えていますが、土の塵から造られたに過ぎないのだから、「できない」ことがあって良いのです。神はその「できない」を抱えて生きる姿を愛おしく見つめておられると、私は信じています。同時に、私たちには神の祝福の息吹が注がれて生きているという喜びがあることを大切に思っています。

上手に生きようとしなくていい、失敗したっていい、あなたが、あなたでいることだけで愛されているのですから。